

ウィンターカップ 2026 静岡県予選 大会展望

【ダイジェスト版】

中島 洋己

((一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭)

第 79 回全国高校バスケットボール選手権大会（ウィンターカップ 2026）静岡県予選が令和 8 年 10 月 10 日に開幕する。11 月 8 日に静岡県武道館で行われる決勝戦で県代表が決まり、12 月 23 日から高校バスケの聖地・東京体育館および昨年武蔵野の森総合スポーツプラザから名称変更され U15Jr. ウィンターカップの会場としても知られる京王アリーナ TOKYO で行われる全国選手権大会へ出場する。今年は男女とも全国出場枠は 1 枠、男子は藤枝明誠、女子は浜松開誠館という夏の全国総体で勝利を重ねた全国トップレベルの強豪を中心とした優勝争いだけでなく、両巨頭に迫るチーム同士の熾烈な凌ぎ合いにも注目が集まる大会となる。全体を総括してまとめると男女とも同じような構図が予想される今大会、男女の絶対王者が空高く君臨し県総体 2 位・3 位のチームが猛追、同じく 4 位～7 位までのチームがメインコートを目指し追従、それを追う上位チームが聖地・県武道館のコートでのプレーを夢に描いて大会を迎えている。

まず大会レギュレーションに関する確認をしておきたい。上述の通り今年は男女とも 3 位決定戦を行わない完全ノックアウト方式のトーナメント制、優勝チームのみが全国の檜舞台を踏む。出場校は少子化や部活動の統廃合の影響から昨年と比べて男女合わせて 6 校減だが 5 校が復活、初出場も 1 校出てきたことは朗報である。開幕は大会史上最も早い 10 月 10 日、翌日の試合で男女のベスト 32 が出揃い、2 週間のインターミッションを挟んで 24 日に県武道館進出を賭けて男子は 4, 5 回戦、女子は 3, 4 回戦が行われ、31 日、11 月 7 日、8 日と恒例の県武道館シリーズに突入する。例年と比較してイレギュラーな 2 週間の大会休止期間に 10 月 15 日から青森県で国民スポーツ大会（「青の煌めきあおもり国スポ 2026」）が開催され、本県からは国民スポーツ大会東海ブロック予選（東海国スポ）で愛知県・三重県を破り見事準優勝した少年女子が 2 年ぶりに出場する。

その他、24 日までの試合ではモルテンまたはミカサの 8 面体球を、県武道館シリーズからは全国大会同様モルテン製 12 面体球を使用、メディア情報としては今大会もスコアシートを AI で読み取り県協会ホームページの U18 カテゴリートップバナーで速報し県協会公式 LINE で登録者のスマートフォンに通知するシステムを試行、昨年度末で廃止された県協会公式アプリの代替として正式運用を目指す。書籍では今年もオールカラーの大会特集号「D-sports SHIZUOKA」が発行され、同じく西部地区上位校を中心とした「Jr. Athlete PLUS」も無料刊行、最終 2 日間は例年同様トコちゃんねる静岡とウィンディにて全試合生中継、また男女決勝はバスケット LIVE でもライブ配信する。さらに今年も静岡朝日テレビにて男子決勝が録画中継、朝日放送制作の「部活ピーポー全力応援! ブカピ!」も最終日の様子をテレビや YouTube で配信、さらには今年も朝日新聞社から優勝チームの全国出場記念の号外新聞が発行されることは吉報である。

大会関連グッズに目を向ければ今年で 20 年目となる大会公式アメニティ「ALL SHIZUOKA」も発売、昨年度はサードシップのブランド「EGOZARU」だったが、今年はヤング商事の人気ブランド「IN THE PAINT」を初採用、アリウープパスからダンクショットに持ち込む瞬間を捉えた印象的なシルエットロゴは「インペ」の愛称でバスケファンならずともお馴染み、EGOZARU のチン

パンジー同様ロゴを見ただけでも選手の気持ちを高揚させることは間違いない。ヤング商事には18年間「BENCH WARMER」のブランドを県予選公式グッズとして販売、大会の顔とも言えるブランドも2年ぶりに販売する。また今年も大会期間中にP&P 浜松とフォトクリエイトのフォトグラファーが来場し集合写真に加え、ゴール下のメディアゾーンから決定的瞬間を含むプレー写真を撮影し販売、一部データを県協会の財産として寄贈していただけることになっている。

全国大会も年々JBA(日本バスケットボール協会)が趣向を凝らしショーアップ化が進み、従来の大会冠スポンサーのソフトバンクに加え昨年からはジャパネットも番組冠スポンサーとして加わり「Japanet Presents SoftBank WINTER CUP」という大会名称となり、全試合バスケットLIVEとDAZN(ダゾーン)でライブ配信、J SPORTS, BS10, BS 朝日, テレビ朝日系列でも試合を限定しながら生中継される予定で、まさに数年前までは想像もつかなかったスポンサー数と盛り上がりを見せていることは予選に参加する選手たちのモチベーションを大いに高めるものである。

現在今年で5年目となるU18日清食品トップリーグも同時進行していて、今年は昨年度末の入替戦で宮崎工業と福岡第一を撃破した藤枝明誠が2年ぶり3度目のディビジョン1に出場、さら全国の頂点を極める強豪と毎週凌ぎを削っている。ディビジョン2(旧称:U18日清食品ブロックリーグ)には男子は昨年の県1部リーグで優勝した浜松開誠館、女子は浜松学院興誠との参入戦を制した浜松開誠館がともに5年連続5度目のアベック出場を果たした。ディビジョン2でグループ優勝を果たせば最低でも翌年の出場権に加え、入替戦への出場権を得られるため各チームが今まで以上に育成と勝敗にこだわった戦い方を繰り返している。他のチームも県協会主催のU18リーグ2026静岡に参加して毎週末上位リーグ昇格を目指して切磋琢磨しており、特に県1部リーグの優勝チームには来春行われるディビジョン2への参入戦出場権も付与されるため各チームはリーグ戦を育成だけでなく実戦の場であると認識し始め、バスケットにリーグ戦文化が完全に根付いたことは喜ばしい限りである。

今回の大会展望執筆では優勝候補や大会上位だけでなく、合同チームや初出場または久々の出場など特徴あるチームにも多くの紙面を割いたことにご理解を頂きたい。そのために多くの顧問の皆様にも取材に応じていただき情報を提供してもらったことにこの場を借りて感謝の意を表したい。そして今回も山口裕史県協会広報副委員長(矢崎部品(株))にも協力して頂いた。厚く御礼を申し上げますとともに、近い将来私の後継者として県協会広報委員会のしかるべき要職に就き、「日本一の広報体制」を引き継いでくれることを心から願う。

【男子】

3 月の入替戦で福岡第一と歴史に残る死闘を繰り広げ県勢として初めて福岡第一に勝利を挙げて 2 年ぶりにトップリーグに帰還、続く県総体も圧倒的な強さで制し全国総体でも駒大苫小牧、そして地元大阪王者・箕面学園とともに大差で下して全国ベスト 16、現在この大会 4 連覇中、県内大会も 13 連覇中、県内連勝も 93 まで伸ばし年度内の 100 連勝突破も見えてきた**藤枝明誠**が文句なしの大本命である。それを猛追するのは昨年 of ウインター県代表、東海新人・東海総体にも出場した**浜松学院興誠**と、7 大会連続県 4 強以上、同じく東海新人・東海総体に出場し安定した実力を誇示する浜松開誠館、これら 3 強に県総体 4 位から 7 位の**浜松商業・静岡学園・城南静岡・沼津中央**が続き、**浜松西・韮山・飛龍**などの実力派チームが県武道館そしてメインコートを狙う展開が予想される。しかしながら昨年と違い全国出場枠はたった「1 枠」、どのチームも藤枝明誠を倒さないと全国への扉は開いていかない。

左上のブロックは、毎年第 1 シード藤枝明誠の独壇場と化している。藤枝明誠は大会期間中にトップリーグ・柳ヶ浦戦、終了直後にも代々木第一体育館で帝京長岡との最終戦をこなすハードスケジュール、その王者へ県武道館での挑戦権を賭けて県総体 8 位の浜松西と県総体ベスト 16・**静岡**が争う展開が予想される。

左下のブロックは県新人・県総体ともに 4 位の浜松商業と、県総体で浜松西・城南静岡にシビアな展開から僅差の勝利で 5 位を掴み取った静岡学園が実力伯仲、準々決勝で雌雄を決することになる。勝った方が藤枝明誠と対戦することになり、絶対王者への挑戦権に加えて静岡学園は 2 年連続、浜松商業に至っては平成 24 年以来 14 年ぶりのメインコートを賭けての戦い、県新人ブロック決勝では 8 点差で浜松商業が勝っているが新人戦と 3 年生最後の大会では選手の胸に潜む想いは別次元、まさに死闘が予想される一戦の勝敗は「神のみぞ知る」である。

右上のブロックは、昨年大会 3 位・県新人準優勝・県総体 3 位と安定した成績を残し続け残る目標は 5 年ぶりの優勝と全国出場しかない浜松開誠館と、県総体 5 決 T 初戦で沼津中央相手に観る者の目を惹きつけるバスケットを展開して鮮やかな逆転勝利、静岡学園戦は接戦の末惜しくも敗れたが、多くの人がこの先の成長と指揮官の求めるバスケット観の定着に期待を募らせる城南静岡を中心とした争いが予想される。

右下のブロックは、昨年の大会で準優勝、3 年前同様「出場枠 2」のワンチャンスを 2 度までも生かして全国に出場、県新人 3 位・県総体準優勝の浜松学院興誠と、一昨年のこの大会 3 位、以来どうしても県 4 強の厚い壁を突破出来ずにいるが充実した戦力は上位 4 強と比較しても全くひけを取らない沼津中央が準々決勝で相まみえる展開が予想される。両チームとも 207cm の留学生を抱え、インサイドでの熾烈なマッチアップが勝敗のカギを握りそうである。

【女子】

今大会も10連覇中、県内大会も29連覇まで伸ばし、全国総体でも日本航空石川とのオーバータイムに及ぶ痺(しび)れる展開で初戦を制し、そのまま昌平、鵜沼の関東勢にも快勝し全国ベスト8に輝いた**浜松開誠館**中心の優勝争いになることは間違いない。その全国トップレベルの無双女王を西部総体決勝で土俵際まで追い詰めた4大会連続東海ベスト8の**浜松南**と、常に安定した試合運びと昨年大会で見せた勝負強さを武器に挑む昨年準優勝・**市立沼津**の公立勢が王者に迫り、県総体4位から7位までの**浜松学院興誠・沼津商業・藤枝順心・常葉大常葉**の実力伯仲チームがメインコートでの勝利を目指しトップスリーに肉薄、さらには**静岡東・磐田北・駿河総合・静岡商業・浜松聖星**の実力派チームに加え、県総体でも旋風を起こし今大会ノーシードながら台風の目となる**磐田東**がまずは県武道館を目指しさらなる上位を窺(うかが)う展開が予想される。

左上のブロックは、その実力が全国トップレベルであることを証明した**浜松開誠館**が大会11連覇を目指してメインコートに立つ絵図しか想像がつかない「独走のブロック」と言える。その絶対王者に戦いを挑むために、県総体で**磐田東・三島北**という難敵を同日に連破してベスト8を勝ち取った**静岡東**と、同地区のライバルとして**静岡東**と幾多の激闘を繰り広げてきた県総体ベスト16の**静岡商業**が武道館前に勝敗を決する展開が予想される。

左下のブロックは、男子同様一番熾烈で実力が拮抗している同士の戦いとなる。5年連続で県総体4強以上を続け、今年の県新人・県総体ともに4位と安定した実力が魅力の**浜松学院興誠**と、県総体5決Tで**常葉大常葉・藤枝順心**の中部勢に対し薄氷を踏む戦いながらも共に僅差で破り5位を勝ち取った**沼津商業**が準々決勝で対戦する公算が高い。この両チーム、一昨年の大会でも準々決勝で対戦、その時は三浦咲というラッキーガールの出現で**沼津商業**が大逆転勝利を飾り初のメインコート出場を果たしたが、今回は勝利の女神がどちらに微笑むのか予想も想像もつかない戦いとなる。

右上のブロックは、昨年のこの大会・米内心菜の大活躍で**浜松南・藤枝順心**に連勝、決勝でも**浜松開誠館**相手に9点差の好ゲームを演じ、県新人・県総体ともに3位に入り東海大会にも出場した**市立沼津**の安定感が頭一つ抜けている。それを各学年にバランスよく戦力が整い、特に長身選手を複数擁しペイントエリアでの高さのバスケに一日の長を感じさせる**藤枝順心**が追いかける。準々決勝で実現すれば昨年の準決勝と同一カード、その時は**市立沼津**が圧勝しているが今年の順心は高さのレベルが違い、昨年のデータをそのまま参考にはできない。

右下のブロックは、打倒・**浜松開誠館**の一番手、戦力は今がピーク、全員が得点源、41年ぶりの優勝と全国を射程圏内に捉えた県新人・県総体準優勝の**浜松南**の強さが群を抜いている。それに続くのは、長く県上位を保ちながらも4強の厚い壁に跳ね返され続け、それでも変革を求め一心不乱に何度もチャレンジ、今回も飽くなき姿勢で挑む**常葉大常葉**。両者は県総体準々決勝で対戦し**浜松南**が**相澤彩乃**の独壇場で大勝しているが**常葉**も同じ轍を踏まないよう対策を十分に講じているはずで好勝負が期待される。